

## 2017年度 事業報告書 (2017年4月1日～2018年3月31日)

日本真空工業会（以下、JVIA）は第18代の篠原 真会長の下で、基本方針である定款第3条の「(JVIAの使命は) 国民生活の向上に寄与すると共に会員の発展、繁栄と会員相互の協調を図ることを目的とする」に則って活動を行なった。今年度はJVIAの長期ビジョンに基づいて策定される「アクションプラン2018」の中間年に当たる。JVIAの長期ビジョンである「アクションプラン2018」に基づき、「社会的使命」と「会員の利益」の二つを機軸として、JVIAの「存在感のアップ」と「グローバル化」を具現化するべく、理事会、委員長会議、企画委員会、各専門委員会、ならびに関西支部を中心に活動を行った。

また、設立以来の任意団体から一般社団法人への移行については、理事会および法人化準備ワーキングにおける作業を経て、2018年1月19日開催した臨時総会において承認可決され、2018年5月31日に実施されることになった。

### 1. 2017年度のトピックス

- ・正会員:1社、賛助会員:2社の入会があった。
- ・教育講座として「真空ウォーキングコース」「真空入門講座」が開催された。
- ・VACUUM2017 真空展がパシフィコ横浜にて開催された。
- ・「環境教育講座」及び「安全教育講座」が関東と関西で単独で開催された。
- ・経済産業省との連携で中小企業等経営強化法に関わる証明書発行書業務を行った。
- ・若手交流会は関東と関西で開催された。
- ・真空ジャーナル9月号に環境活動報告書2017を盛り込んだ。
- ・海外視察(タイ・METALEX2017)を実施した。
- ・サプライヤ交流会を真空展初日にパシフィコ横浜にて実施した。

### 2. JVIA 活動内容の詳細

#### 1) 関西支部

- ・第31回定時総会・講演会・懇親会 平成29年5月25日(木) 於:ホテル大阪ベイタワー  
総会出席会員数:17社(出席者人数:23名) 書面による参加会員数:27社  
計44社でした。総会講演会は公益社団法人 新産業創造研究機構 理事長 牧村 実様をむかえ「将来のエネルギーオプション<水素>の導入と次世代成長産業への展開」を演題に講演していただきました。参加聴講者数:48名であった。  
続いて懇親会 参加者数:44名でした。
- ・秋季合同講演会・懇親会 平成29年9月28日(木) 於:ホテル大阪ベイタワー  
秋季合同講演会(一般社団法人 日本真空学会 関西支部との共催)を開催した。
  - ① 大阪府立大学 大学院経済学研究科 吉田教授様より

## 第1号議案 2017年度事業報告及び決算報告

「データからみる世界と日本の経済・社会の本当の姿」

- ② 三重大学 大学院地球イノベーション学研究科 三宅教授様より

「深紫外LEDのためのAIN/sapphire基板開発」と題してそれぞれ講演していた。講演会（55名参加）に引き続き懇親会（48名参加）を行なった。

- ・若手社員交流会

【第47回】平成29年6月23日（金）

- ① 日本銀行 神戸支店 ② 神戸税関 参加者：24名

【第48回】平成29年11月12日（日）

農業公園 信貴山のどか村にて、シイタケ狩り・芋掘り体験とバーベキューを実施した。参加者：大人29名 子供22名

- ・支部会 平成29年11月17日（金）・18日（土）

見学場所：①関西電力 日高港新エネルギーパーク

②紀州東照宮

宿泊場所：新和歌浦温泉一萬波 MANTA RESORT

参加者：10名

- ・見学会 平成30年2月14日（水）

- ・立命館大学 SRセンター（びわこ・草津キャンパス）

- ・黄桜 伏水蔵、黄桜記念館（お酒の資料館）、河童資料館

## 2) 企画委員会

- ・サプライヤ交流会が真空展初日の9/6に開催され、サプライヤ:34名、理事会社:41名、スタッフの総勢:91名が参加し、サプライヤプレゼン、懇親会が盛況に行われた。

- ・若手交流会（JVIA—EAST）

（春）企業・研究機関の見学会

第23回若手交流会が5/27にヤマト運輸羽田クロノゲート（関東最大級の物流倉庫）を見学し、24名の参加者があった。

（秋）会員企業の社員やその家族も参加いただけるレクリエーション行事

第24回若手交流会が10/21に秩父宮ラグビー競技場にて「ラグビートップリーグ観戦ツアー」を開催し、25名の参加者があった。

- ・身近な真空調査小委員会は、展示会において「真空なんでも相談コーナー」を開設した。

- ・スマートファクトリー Japan 2017（相談者数:8名） ・新価値創造展 2017（相談者数:12名）

- ・真空展 2017（相談者数:18名）

- ・11/21～25海外視察『タイ・METALEX2017』を実施、篠原会長を団長として、14名の参加者があった。METALEX2017を2日間見学の他、JETROバンコクオフィスや日新電機タイ(株)を訪問した。タイでの活躍する日系企業への真空関連技術サポートにより

## 第1号議案 2017年度事業報告及び決算報告

日系企業プレゼンスを更に高め、教育体系整備による日本の真空技術の浸透、JVIA企業の事業拡大につながる活動を企画していく。

### 3) 教育委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」

幅広い産業の基盤技術である真空技術の維持・向上を図る目的で本年度は下記の2件の真空教育講座が実施された。

- ・第23回真空技術基礎講習会「真空ウォーキングコース」が行われた。  
8/28～9/1(於:工学院大学 八王子キャンパス) 受講者数:128名(A,B日程) 前年比:119%
- ・真空展における「真空入門講座」が行われた。  
9/6～9/8(於:真空展パシフィコ横浜) 受講者数147名(3日間) 前年比:89%

### 4) 出版委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」

JVIAの活動を広く会員各位および社会に公告するため、下記の広報活動が実施された。

- ・真空ジャーナルは年4回発行(毎回1200部)
- ・「チャンバーマン(小冊子)」と「真空常識・非常識」を組み合わせた新しい冊子「これで解決!真空活用!!」を構成し、2018年度完成予定。

### 5) 規格標準委員会「真空機器に関する規格の立案および標準化の推進」

- ・ISO/TC112で取り扱う真空技術に係わる国際規格の整備事業を、一般社団法人日本真空学会と共に「規格標準合同検討委員会」として活動が行われた。
- ・9/7に開催された真空展併催事業における規格標準報告会は「隔壁真空計の規格開発の現状報告と、真空と漏れの標準、ガス分析」が講演され、34名の受講者があった。  
(前年比:87%)
- ・ISO/TC112総会が、2017.11.28～12.1にドイツ(ベルリン)ドイツ物理工学研究所で開催され、JVIA:1名、VSJ:3名が参加した。
- ・日本規格協会のJIS原案作成公募制度によるJIS原案作成委員会において、真空技術一用語一第3部:真空計及び関連用語を改定すべく上記公募制度の元で活動した。  
2018.1.10日本規格協会外部委員の確認が終了し、今後は経済産業省での審議を行う。

### 6) 技術委員会「真空機器に関する技術開発に係わる調査研究」

産業動向の調査検討を行い、真空産業分野の新規事業開拓に関する情報提供を行うために2016～2017年度の技術調査活動として「センサと真空技術」をテーマとして、調査が完了し、「センサと真空技術」調査報告会を4月20日(金)に機械振興会館にて開催する。

### 7) 統計委員会「真空機器に関する生産・流通・及び保全等の調査研究」

## 第1号議案 2017年度事業報告及び決算報告

- ・2017年度の統計参加会社数は54社で、四半期ごとに受注・売上データを集計し年間で4回プレスリリースを実施した。四半期毎の国際統計事業は日本(JVIA)、欧州(EVTA)、米国(AVEM)の3団体から真空コンポーネント製品の売上データの収集が行なわれた。毎年1回開催される国際統計会議(ISVT)は10月30日に米国・フロリダで開催されJVIAからは統計委員長・コンポーネント小委員長の2名を派遣した。2018年度は、日本で12月に開催する予定である。また協賛団体であるSEAJの市場動向セミナーに参加し、統計委員会にて報告を行なった。

### 8) 環境委員会「真空機器に関する環境に係わる調査研究」

- ・会員各社に環境活動アンケートを実施し、「環境活動報告書2017」を従来は単独発刊していたが、経費削減および真空展にて多くの方へ配布する目的で、真空ジャーナル9月号に合併号として掲載した。
- ・真空展において環境トピックス「初心者向け環境法令 Basic 講座」が講演され、31名の受講者があった。(前年比:78%)
- ・今年度も「環境教育講座」はSEAJの環境部会と共催で実施した。
  - 12/1 関東地区((機械振興会館) 受講者数47名(前年比:92%)
  - 2/9 関西地区((株)島津製作所 関西支社) 受講者数22名(前年比:110%)
- ・「他業界工場見学」を3/2に実施した。参加者10名(味の素株 川崎工場)

### 9) CS委員会「真空機器に関する安全に係わる調査研究」

- ・真空展において第19回作業安全教育講座(関東)が講演され、31名の受講者があった。(前年比:80%)
- ・11/10 第20回安全教育講座(関西)を熊本地震復興の一助として、熊本県(玉名市市民会館)で開催され、19名の受講者となった。
- ・「作業時に使用する治工具の取り扱い・管理等 改訂版」をHPにアップした。

### 10) 展示会委員会「真空産業に関する情報の普及および啓発」

- ・今年度の展示会は、従来と同じく日刊工業新聞社がイベント運営担当を行い、難加工技術展、表面改質展と併催として、パシフィコ横浜で9/6~9/8の3日間開催された。
- ・有料出展は74社・団体、115小間(昨年は76社団体、113小間)と規模は微増した。
  - 3日間の入場者は9,654名(昨年は9,502名)と前年度比101.6%であった。単独開催から共同開催とした真空展は、異なる産業の関連技術が加わることで新たな発見やビジネスチャンスが生まれ、コラボレーションも相まって、新しい形の展示会が定着しつつある。  
特別基調講演会は『宇宙エレベーター建設構想』講師 石川 洋二氏(大林組 本社 宇宙EV要素技術実証研究開発チーム 幹事) 受講者203名であった。

## 第1号議案 2017年度事業報告及び決算報告

- ・(一社)日本真空学会と合同で、真空フォーラム・シンポジウム「薄膜最前線」が9/8開催した。受講者数75名(前年度比110%)

### 11) 事務局

#### 会員会社とのコミュニケーション

会員各位の意見交換の場として、下記の会合をそれぞれ実施した。

定時総会、記念講演会、懇親会 (H29.5.19 芝パークホテル)

賀詞交歓会、臨時総会 (H30.1.19 芝パークホテル)

#### 一般社団法人日本真空学会との協業

- ・規格標準合同検討委員会にてISO/TC112(真空技術)とJIS真空関連規格の作成活動が実施された。
- ・第10回VSJ・JVIAトップ会談が7/18に行われた。
- ・第38回VACUUM2017真空展が共同主催で行われた。
- ・第15回真空技術者資格認定試験が行われた。
- ・産学連携委員会3月例会(3/12)において、篠原真会長による講演会が開催された。

講演内容：日本真空工業会の歴史と活動

～日本表面真空学会とのコラボレーションの期待～

#### 内外関係機関等との交流および協力

- ・国内関連諸団体との情報交換やセミナー等の協力共同事業として、10の団体の展示会、講演会に協賛名義許諾の発行を行った。

#### 経済産業省産業機械課との連携

- ・今年度より開始された「中小企業等経営強化法の経営力向上設備途に係る生産性向上要件証明書」に係る証明書発行業務を行い、今年度の発行件数は71件であった。

#### 協賛会員(1年間限定のトライアル会員)

- ・協賛会員：3社－(株)トックワライジジャパン、MSリサーチ合同社、ブラザージャパン(株)の入会があった。

#### 一般社団法人移行の件

- ・1月19日(金)開催した臨時総会にて承認可決した。

名称 一般社団法人 日本真空工業会

設立時期 登記日 2018年4月2日

移行日 2018年5月31日

#### 会員勧誘活動の件

- ・下記3展示会にJVIAブースを出展し、JVIA紹介、新規会員募集を行った。

スマートファクトリー Japan 2017 平成29年6月7日～9日

新価値創造展 2017 平成29年11月15日～17日

SEMICON Japan 2017 平成29年12月13日～15日

### 3. 事務局報告

#### 1) 理事・監事の変更

会社の異動に伴い下記の理事が交代された。

##### 【理事】

・ライボルト株式会社

退任： 古城門 晋（営業本部長）

新任： 市川 裕子（代表取締役）

・事務局

退任： 専務理事 岡本 鉄男

新任： 専務理事 池田 耕一郎

#### 2) 武田 清 事務局長が平成30年2月16日より就任した。

#### 3) 会員移動

年度内の会員の移動は以下の通りである。

##### 【会員数】

会員区分	17.3.31 現在	入会	退会	18.3.31 現在
正会員	50	1	0	51 社
賛助会員	51	2	1	52 社
特別会員	9	0	0	9 団体
計	110	3	1	112 社・団体

会員区分	17.3.31 現在	入会	退会	18.3.31 現在
シニア会員	14	0	1	13

##### 【入会】

正会員：新日鐵住金(株)

賛助会員：(株)中村製作所、北野精機(株)

##### 【退会】

賛助会員：三愛プラント工業(株)

#### 4) 出版物

- ・「環境活動報告書2017」－環境委員会
- ・「センサと真空技術」技術報告書－技術委員会
- ・「作業時に使用する治工具の取り扱い・管理等 改訂版」－CS委員会

以上